



北九州地域初!

最先端の3D-前立腺生検

BioJet 導入のご案内

より安全、正確で、質の高い、
前立腺がん診断が可能に

この度、産業医科大学若松病院に導入したバイोजェットは、事前に撮影したMRIの画像と、超音波検査画像を同期させて実施する生検法であり、組織を的確に採取することができる最新鋭のシステムとなっています。令和6年1月時点、北九州地域で初の導入となります。従前の生検と比べ、診断の精度が向上しており、小さながんも見つけやすく、また麻酔をしてから生検をおこなうため、患者さんは痛みを感じることなく受けられます。

若松病院では、患者さんが安心して検査を受けられるよう、入院病床も用意しております。また、悪性腫瘍が見つかった場合は、産業医科大学病院にて手術を実施できるような連携体制も整備しております。

【患者様のご紹介・お問い合わせ】

〒808-0024 北九州市若松区浜町1-17-1

産業医科大学 若松病院 地域連携室

TEL 093-285-3205

FAX 0120-919-714

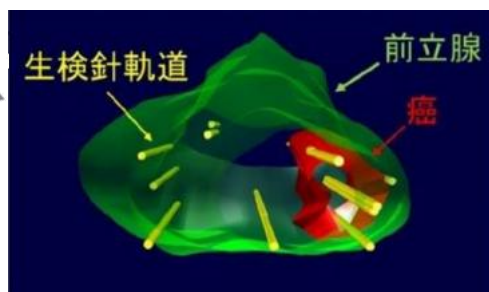
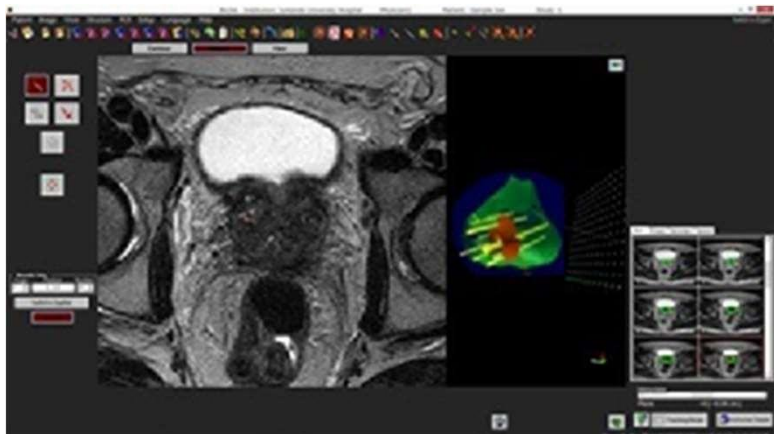


従来型生検（系統的生検）とバイオジェットによる新しい前立腺生検法（標的生検）の違い

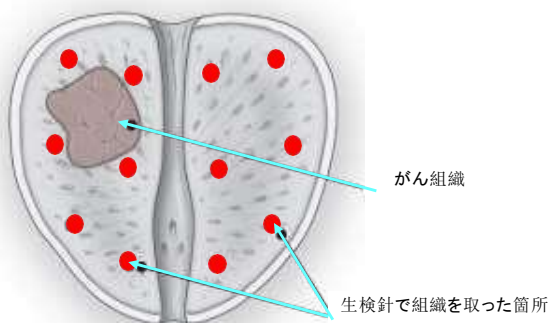
超音波診断機だけではよほど大きながんでなければ見ることはできず、多くの場合、前立腺の位置と生検針しか確認することができません。こうしたがんの疑われる部位を正確に事前予測できない為、前立腺全体にまんべんなく複数箇所生検針を刺し組織を採取して診断するのが従来型の「系統的生検」です。

これに対して、今回当院で導入した「バイオジェット」による「標的生検」という手法は、事前にMRI画像を撮影することで、がんができていない部位をあらかじめ確認し、前立腺に生検針を刺す際の超音波画像にソフトウェア上で事前のMRI画像（がんの疑いのある部位が特定できた画像）を重ね合わせた画像イメージを合成し、針を刺すべき場所を教えてくれるシステムです。これにより、効率よく正確に疑わしい部位から組織を採取することができます。

こうした画像融合による診断機は数種類ありますが、その中でも「バイオジェット」は、2016年2月に厚生労働省に認可され先進医療として行ってきた技術が、2022年4月に保険収載され、一般の健康保険が適用されることになりました。



前立腺生検を正確に行う意義



※生検針ががん組織にたまたま当たらなかった場合のイメージ；
この場合、「がんではない」という診断結果になってしまいます

従来型の生検では、1度の生検で見つからなかった場合でも、がん組織が無かったのではなく、たまたま針にがん組織が当たらなかったという可能性もあります。

本当がんでなければよいのですが、以降の定期的PSA検査で値が上昇すれば、複数回前立腺生検を受けることになり、ようやく前立腺がんが見つかった時には病期が進んでしまっていた、という事態も考えられます。

前立腺生検は患者さまへの侵襲（手術による痛み・出血・発熱などのこと）を伴うことに加え、時間とコストを要しますが、「バイオジェット」によるより正確な前立腺生検を行うことで、たび重なる不要な生検を回避したり、前立腺がんをなるべく1度の生検で発見し、次の治療段階に早く進めることが100%とは言えませんが高率にて可能になります。

前立腺がんは相当進行しないと自覚症状が無く、生検で陽性と早期に診断することが重要です。血中PSA値とMRIで、がんが疑われる場合はなるべく正確な生検方法による診断を受けられることをお勧めします。

産業医科大学若松病院では、当該検査の実績を十分に有した医師が対応いたします。また、産業医科大学病院とも連携し、患者様にとって最良な医療を提供いたします。患者様がおられましたら、若松病院へご紹介をよろしくお願い申し上げます。



産業医科大学 若松病院 病院長
産業医科大学 泌尿器科学 教授 藤本 直浩